

機関番号：14101

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2008～2010

課題番号：20500648

研究課題名（和文） 家庭経済教育における計算的内容の充実に関する研究

研究課題名（英文） Study for the Solidity of Calculative Contents in Family and Consumer Economics Education

研究代表者

乗本 秀樹 (NORIMOTO HIDEKI)

三重大学・教育学部・教授

研究者番号：20144222

研究成果の概要（和文）：わが国では、これまで、大学生や生活者に生活経済計算を学ぶ機会が用意されてこなかった。この不十分さを補うために、本研究では、生活経済計算について体系的かつ具体的な教材を開発した。併せて、学校教育や生涯教育において生活経済計算学習が普及する過程で直面すると思われる問題点について、家庭経済学、生活経営学、消費者教育学などの立場から検討し発表した。

研究成果の概要（英文）： In Japan, college students and people had never kept opportunities to learn about the economic calculating actions in daily lives. So, we developed a systematic and practical textbook about it, And, we also researched on the problem issues, which will be met on the diffusion processes of the calculation learning in school education and life long education, from the view points of Family and Consumer Economics, Home Management, and Consumer Educations.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	1,300,000	390,000	1,690,000
2009年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2010年度	900,000	270,000	1,170,000
総計	3,300,000	990,000	4,290,000

研究分野：総合領域

科研費の分科・細目：生活科学・生活科学一般

キーワード：家庭経済学、経済生活設計、家計把握、生活資金循環、生活環境把握、生活経済実態

1. 研究開始当初の背景

(1) 生活的背景 多くの人々が生活経済計算に関することから学ぶ機会がないままに保険やローンにかかわるのが、わが国の一般的な傾向である。問題の発生を防ぐためにも、消費者としての自律性を保つためにも、この事態は是正されなければならない。

(2) 学術的背景 家庭経済学は、ミクロ経済理論の解説、統計的事実や計量結果の照会と解釈、あるいは諸制度の解説を主として展開してきた。あるいは、資本主義経済と個別経済主体の構造的関係を解明することに、力を注いできた。その一方で、経済意志決定や

経済意志決定スキルについては、家庭経済学ではほとんど言及されることがなく、むしろ生活経営学に委ねられてきた。しかし、生活経営学（とくにわが国の生活経営学）においても、生活経済計算への言及はきわめて乏しい。この点での不十分さは、克服されなければならない。

2. 研究の目的

(1) 計算力涵養プランの作成 家庭生活者が知っておくことが望ましい経済計算主題を把握する。そして、各主題にふさわしい例題を作成する。解法を示すとともに、背景と

なる制度や計算式に込められる生活観や経済理論などをわかりやすく説明する。全部の主題についてこの作業を行うことによって、計算力涵養モデルプランを作成する。

(2) 理論的な考察 家庭生活・消費生活の現実、ならびに家庭経済教育、消費者教育や消費者支援機関の活動の実態を見ることによって、生活経済計算導入の問題点を探る。また、上のモデルプランに、学術的な位置づけを与える。すなわち、家庭経済学をはじめとする研究分野に計算力涵養という主題を位置づける。

3. 研究の方法

「生活経済計算力涵養のためのモデルプランの作成」と「生活経済計算力涵養モデルプランの学的位置づけならびに実用への方向づけ」が、本研究の課題である。

前者については、次の方法を採用する。

① 4名（研究代表者ならびに研究分担者）の討議によって、生活計算主題を広くピックアップする。ピックアップに際しては、学問上の論点や関心だけでなく、生活者や学生が実生活の中で素朴に覚える疑問をていねいにすくい取る。その後、討議によって、家庭生活者に関心を持ち計算処理できることが望ましい計算主題を精選する。

② 4名で、分担して、主題ごとに、【例題】【解説】【演習】【示唆】を作成する。ここでの記述は、現実の実務計算よりもシンプルであるが、考え方において実務と乖離があってはならない。乖離を防ぐために、社会保険労務士、弁護士、金融機関等から参考意見を得る。そのうえで、各主題について計算力涵養モデルプランを完成し、全項目についてとりまとめる。

③ ②でとりまとめたものを大学生の授業や市民の講座で利用することによって、理解の難易や書式・表現の適切さを検討する。その結果をふまえて、記述をさらに改善し、最終的なものとしてとりまとめる。

④ ③でとりまとめた結果を冊子として印刷製本し、家庭経済教育の研究者や関連する公的機関等に配布する。

後者については、次の方法をとる。

4名の各々が、各自の研究をふまえて、計算力涵養モデルプランを実用しようとする際に予想される問題点について検討する。こうしたテーマは、家庭経済学等の生活諸学に計算的主题をどう位置づけるかという課題でもある。文献研究ならびに実態調査によって、これを果たす。そして、それぞれの研究がまとまる都度に、学会等で論文・口頭発表する。

4. 研究成果

(1) 計算力涵養モデルプランの作成 生活

経済計算の項目として、以下の諸項目が選定された。

A 家計の収支

家計収支の項目、エンゲル係数、可処分所得、固定費と家計の自由度

B 家計の資産

家計の貸借対照表、耐久消費財と減価償却費（定額法）、耐久消費財と減価償却費（定率法）

C 利子と金融

預貯金金利と単利・複利、わりびき操作、借入金返済とりボルピング方式、アドオン方式によるローン返済、元利均等残債返済方式によるローン返済、元金均等返済方式によるローン返済、表面金利と実質金利

D 保険

保険の原理（かけ捨てと貯蓄）、保険の原理（資金運用とわりびき）、家庭生活の危険管理、保険加入の意思決定

E 社会保険と公的年金

社会保険の保険料、社会保険の受給額

F 資産の運用と価額

株式の売買と利回り、株式の評価額、わりびき資産価額

G 所得税

所得税計算の枠組み、控除と所得額、所得税額の算出

H 物価

消費者物価指数（ラスパイレス式）、消費者物価指数（パーシェ式、フィッシャー式、エッジワース式）、消費者物価指数（接続指数等）、消費者物価指数を用いた実質計算、消費者物価指数地域差指数、購買力平価と内外価格差

I その他（総合的または社会的な指標）

中長期の資金循環と生活経営、就業時間選択、無償労働の貨幣評価、最低生活費（マーケットバスケット方式）、最低生活費（エンゲル方式）、最低生活費（実態生活費）、所得格差の算定（ジニ係数）

38個の項目の各々について、【例題】【解説】【演習】【示唆】を記述して冊子にした（『家庭経済教育における計算的内容の充実に関する研究<モデルプラン>』、105頁）。そして、教員養成系大学・家政系大学の家庭経済学研究者、（財）消費者教育支援センター・（独）国立教育政策研究所等の公的機関、保険会社等の民間機関など100の個人・機関に配布した。

(2) 計算力涵養プランに関する意見の獲得 4名が担当する大学・短期大学の授業や社会人対象の免許法更新講習授業などで、とりまとめ途上のモデルプランを紹介しチェックを受けた。書式の改善などについて、学生等からさまざまな意見を得た。とくに示唆的なものを挙げておこう。

①大学生や短期大学生のなかには、生活経済計算に積極的な関心を示す者がいた。読みやすいテキストを用意し学生が抱く質問に丁寧に答えるならば、十分に理解してもらえることがわかった。

②その一方で、以下のように根本的な問いがあった。

- ・専門機関にまかせればよいことがらをわざわざ学習することに、どのような意味があるのか。
- ・生活経済計算をみんなが得意にならないといけないのか。
- ・小学生向けにどう教材化するのか。

(3) 実用への方向づけと学術的位置づけ

実用への方向づけとして、まず(2)－②の問いを検討し深めた。家庭経済学を越えた諸分野(教育学、哲学など)の知見にも裨益されながら以下の趣旨の答えを得た(5－雑誌論文; ①、④、⑨)。

- ・計算は、本来、生活者が保つはずの権能である。計算は、あたかも調理や被服製作と同じ技術である。
- ・全員が計算できなければいけないわけではない。社会や地域に『あそこでは尋ねるとわかる』場所が一定程度以上にあるのが望ましい。
- ・高校生ないし大学生のときには知っておく必要がある。小学生への金銭計算教育については、「多くの教育書で金銭の計算に懐疑的なのはなぜか」という点の吟味から始めるべきではないか。

また、実用への方向づけのために、生活経済計算の担い手である生活者の状況ならびにそれを支援する消費者行政の状況についても、調査研究を行った(5－雑誌論文; ②、③、⑥、⑪、⑬)。

他方、生活経済計算が生活関連諸学にどう位置づけられるかについて、家庭経済学を中心に、多面から論じた(5－雑誌論文; ⑦、⑩、⑫、図書; ①)。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計13件)

- ① 乗本秀樹 生活経済計算機能の内部化について 三重大学教育学部研究紀要(社会科学)、査読無、62巻、2011、pp.61-68
- ② 色川卓男 消費者行政活性化計画はどう進んでいるか、静岡大学教育学部研究報告(人文・社会・自然科学篇)、査読無、61号、2011、pp.219-233
- ③ 色川卓男 政令指定都市における消費者教育・啓発施策の実態と課題、国民生活、査読無、No.25、2010、pp.20-23
- ④ 乗本秀樹 経済計算を通じた生活環境把

握について、三重大学教育学部研究紀要(社会科学)、査読無、61巻、2010、pp.113-118

- ⑤ 色川卓男 家計からみた「標準生活モデル」世帯の現在、生活経営学研究、査読無、45号、2010、pp.21-28
- ⑥ 関根美貴 母子世帯家計の実態について 愛知教育大学家政教育講座研究紀要、査読無、39号、2009、pp.79-91
- ⑦ 乗本秀樹 家庭経済学の枠組み、家庭経済学研究、査読無、22号、2009、pp.41-46
- ⑧ 大藪千穂 地域経済と生活者の安心—持続可能な社会のための生活指標—、生活経済学研究、査読無、30巻、2009、pp.57-61
- ⑨ 乗本秀樹 家庭経済学への計算的主題の導入について 三重大学教育学部研究紀要(社会科学)、査読無、60巻、2009、pp.153-161
- ⑩ 乗本秀樹 家庭経済学部会報論考の傾向と家庭経済学の枠組み 家庭経済学研究、査読無、21号、2008、pp.17-23
- ⑪ 大藪千穂・杉原利治 人間発達プロセスを基盤とした「人生設計ゲーム」の開発、消費者教育、査読有、28巻、2008、pp.95-105
- ⑫ 色川卓男 大学教育と研究者からみた家庭経済学の現状 家庭経済学研究、査読無、21号、2008、pp.10-16
- ⑬ 色川卓男 家計簿からみた女子大学生の経済生活と家計簿記帳の金融・経済教育上の意義について クォーターリー生活福祉研究、査読無、67号、2008、PP.10-16

[学会発表] (計5件)

- ① 色川卓男 所得低下、雇用不安における家計の現状 日本家政学会生活経営学部会、2010年8月26日、東京家政学院大学
- ② 色川卓男 消費者行政活性化計画はどう進んでいるか、生活経済学会、2010年6月20日、東北福祉大学
- ③ 乗本秀樹 生活経営学における内的諸契機について 日本家政学会、2010年5月30日、広島大学
- ④ Chiho Oyabu The development of Indicators for enriched life The 8th Biennial Conference of Asian Consumer and Family Economics Association、2009年7月3日、セントコア山口
- ⑤ 乗本秀樹 家庭経済学への計算的主題の導入のための予備的考察 日本家政学会、2008年5月31日、日本女子大学

[図書] (計1件)

- ① 大藪千穂、財団法人放送大学教育振興会、仕事・所得と資産選択、2008、246

6. 研究組織

(1) 研究代表者

乗本 秀樹 (NORIMOTO HIDEKI)
三重大学・教育学部・教授
研究者番号：20144222

(2) 研究分担者

色川 卓男 (IROKAWA TAKUO)
静岡大学・教育学部・准教授
研究者番号：90293589
大藪 千穂 (OYABU CHIHO)
岐阜大学・教育学部・准教授
研究者番号：10262742
関根 美貴 (SEKINE MIKI)
愛知教育大学・教育学部・准教授
研究者番号：80226654

(3) 連携研究者

()

研究者番号：